

(2) 社 会

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>① 知識・理解</p> <p>1. 住民のくらしをよくする市（町・村）の仕事 生活用水の確保、歩道橋の建設についての正答率は、それぞれ45%、70%である。誤答の多くは、役所の仕事と混同して発電所、デパートを選んだものが目だつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 役所が中心になって行う市（町・村）としての仕事の内容をはっきり指導しておく。 ◦ 市（町・村）の公共施設ができるまでの経過を、具体的に取り扱うことによって、市役所（町・村役場）の働きを理解させる必要がある。 ◦ 観察学習の際、内容を精選してねらいに即して指導する必要がある。
<p>2. 廃棄物の処理とその施設 ごみ処理についての正答率は80%である。清掃工場をごみ収集の便利さだけで考え、「町の中心部に設置した方がよい。」と判断し、解答しているものが多い。 下水処理場の設置についての正答率は32%と低い。誤答の多くは、浄水場と下水処理場を混同して答えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 浄水場・下水処理場の仕事の内容やしぐみのちがいを、見学や資料等を活用して明確にさせておく必要がある。 ◦ 清掃工場の設置場所をめぐる問題については、具体例をもとにとらえさせておきたい。
<p>3. 安積疏水の開発 郡山地方に水をひけなかった理由についての正答率は45%と低い。誤答の多くは、「川がない」、「水の量が少ない」を選んでいる。 取水湖名の正答率は84%と高い。しかし、疏水名の正答率は61%である。 あれ地の変化についての正答率は、52%である。誤答の多くは、最近の開発と混同し、「工場敷地」、「住宅団地」と解答しているものが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 郡山地方は、川がありながら水をひくことができなかったことを、土地の条件から考えていくことが大切である。 ◦ 固有名詞は、しっかりと覚えさせる必要がある。 ◦ 今から100年ほど前の郡山地方と今日の郡山地方を具体的な資料を用いて比較し指導する必要がある。
<p>4. 自然条件から見て特色ある地域の人々の生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 「土地が高い」・「農道や自動車などの通る道路」などの断片的な事実だけで地域の特色